



トップ > フォトニュース > 平和資料館開設に向け活動スタート・・・ピースくまもと設立準備事務局

フォトニュース Photo News

[一覧へ戻る](#)

平和資料館開設に向け活動スタート・・・ピースくまもと設立準備事務局

2018年5月18日（金）

戦争と平和を総合的に学べる平和資料館設立に向け県内で活動する市民団体「ピースくまもと設立準備事務局」の発足会が5月13日、熊本市中央区の熊本県民交流館バリアで開かれ、熊本空襲や戦争資料などを未来に伝えることなどを柱にした設立骨子案を承認した。

新老人の会熊本支部（小山和作代表）の「戦争を語り継ぐ会」と「戦争遺産フォーラムくまもと」（高谷和生代表）のメンバーでつくる準備会が母体となり、戦争体験の継承などを目的に、戦争時の遺品などの展示を常設する資料館を5年以内に開設することを目指す。

「戦争を語り継ぐ会」では月に1回の戦争証言者集会、体験集の刊行などの活動を展開。昨年9月に例会が100回目を迎え、記念シンポジウムを開催したことを契機に、平和活動に取り組む団体の横のつながりの強化や戦時資料などを常設する平和資料館設立の必要性を感じ、戦争遺跡の調査や保存、戦争遺産を巡るツアーなどを企画する「戦争遺産フォーラム」と共同で資料館の設立へ向けた準備会を発足することになった。

発足会では関係者ら約100人が参加。高校生平和大使なども駆け付けた。冒頭、新老人の会熊本支部代表で小山和作・ピースくまもと設立準備事務局代表が「戦争が終わって73年。戦争経験者が少なくなり悲惨な体験を後世に伝えることが課題になってきている。今日をスタートに語り継ぐ活動をさらに強化し、協力して平和資料館をつくりたい」と開会あいさつ。

戦争と平和のミュージアム「ピースくまもと（仮）」の設立の経緯、骨子案、今後の活動などについて、高谷和生・ピースくまもと設立準備事務局会事務局長が報告「①熊本空襲を調査、記録し、未来に継承する。②熊本の戦争の歴史とその遺産を学ぶ。③次の世代が学び体験し人に伝える」などとする会の趣旨を説明した。

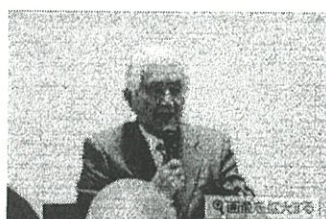
次に熊本市在住の赤木満智子さんが、1945年7月1日の熊本大空襲時につづった体験記を読み上げ、当時の状況を説明。菊池飛行場ミュージアムを運営する永田昭さんがミュージアム設立までの経緯を紹介しながら資料収集や資金調達などの運営課題を指摘した。その後、5千点の戦争資料を収集している宇城市在住で元教員の上村真理子さんが持参した資料を用いながら「次の世代が継承して戦争の悲惨さを語り継がなければならない」と語った。

その後、設立準備会の発足宣言を新老人の会熊本支部の久米野安俊事務局長が読み上げ、安藤富士記ピースくまもと設立準備会事務局副代表のあいさつで閉会した。

同会ではホームページの開設による情報発信や熊本戦争遺産の旅の企画、熊本空襲の企画展を熊本市立図書館で開くなど活動を予定している。（政治経済部・宮崎泰樹）



約100人が参加した準備会発足会



開会あいさつする小山代表



熊本空襲の体験記を語る赤木氏



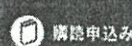
菊池飛行場ミュージアムの説明をする永田氏



戦時品を手にあいさつする上村氏



展示された戦時資料



熊本空襲 未来に伝えよう

太平洋戦争について総合的に学べる資料館の具内設立を目指す準備会の発足会が13日、熊本市中央区の県民交流館パレアであり、熊本空襲の調査記録を未来に伝えることなどを柱にした設立骨子案を確認した。

戦争学べる資料館 準備会が発足の会

設立準備事務局会が発足会を開き、約100人が参加した。ほかの設立骨子の柱は軍都熊本について学ぶことと、次世代が学び、体験したことを人に伝えること。機運を盛り上げるため、ことし7月と8月に県内の戦争遺跡を巡るバスツアーを実施し、8月に熊本市立図書館で熊本空襲の企画展を開く計画も示された。

今後は市民や企業からの寄付を募るほか、自治体にも支援を求める。事務局会の小山和作代表(85)は発足会で「きょうがスタート。最後まで協力してほしい」と呼び掛けた。参加した同市東区の元塾講師、鶴山幸子さん(71)は「戦争の悲惨さを伝える施設が早くできるよう応援したい」と話していた。

(熊川果穂)



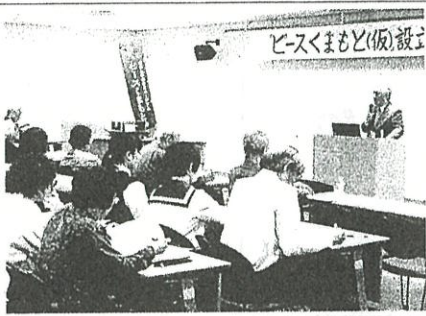
資料館設立を目指す準備会の発足会が開かれた会場で展示された戦時資料を見学する参加者＝13日、熊本市中央区

「戦争資料館」設立目指す

熊本 市民団体などが準備会

戦争の記憶を次世代に継承するための資料館「ピースくまもと(仮称)」の設立を目指す。準備会は、戦争体験を伝える「新老人の会熊本支部・戦争を語り継ぐ会」や、戦争遺跡の調査・保存に取り組む「戦争遺産フォーラムくまもと」が母体となる。

熊本の記憶を次世代に継承するための資料館「ピースくまもと(仮称)」の設立を目指す。準備会は、戦争体験を伝える「新老人の会熊本支部・戦争を語り継ぐ会」や、戦争遺跡の調査・保存に取り組む「戦争遺産フォーラムくまもと」が母体となる。資料館は、熊本空襲の調査や記録、戦争遺産の情報発信とともに、次世代に記憶を継承するための拠点とすることを目指す。準備会は今後、県内の戦争遺跡を巡るツアーや、ホームページでの活動内容の発信などを通じ、資料館の設立に向け、賛同者を募るといふ。



約100人が参加した「ピースくまもと(仮称)」設立準備会の発足会

準備会は、戦争体験を伝える「新老人の会熊本支部・戦争を語り継ぐ会」や、戦争遺跡の調査・保存に取り組む「戦争遺産フォーラムくまもと」が母体となる。資料館は、熊本空襲の調査や記録、戦争遺産の情報発信とともに、次世代に記憶を継承するための拠点とすることを目指す。準備会は今後、県内の戦争遺跡を巡るツアーや、ホームページでの活動内容の発信などを通じ、資料館の設立に向け、賛同者を募るといふ。発足会には、高校生ら約100人が参加。菊池市で私設の戦争資料館「菊池飛行場ミュージアム」を運営

する市民団体や、熊本空襲の経験者らによる発表が行われた。準備会の小山和作

代表(85)は「心をついに力を合わせて資料館をつくらうとなった。戦争を二度と

起こしてはいけないと、大きな声で伝え続けなければいけない」と訴えた。

戦禍の記憶後世に

資料館設立へきょう準備会

熊本市・市民など
本団

戦禍の記憶を伝える戦争資料館づくりを目指す。熊本市内の市民グループなどが13日、熊本市中央区で設立準備会を開く。同県内は熊本市だけで617人が犠牲になった熊本大空襲(1945年7、8月)などで甚大な被害を受けたが、当時の記憶を伝える中心的な

資料館がない。準備会は賛同者を増やして機運盛り上げを目指す。市民グループは往年の軍施設や戦火の跡など戦跡保存に取り組み「戦争遺産フォーラムくまもと」、戦争体験を伝承している「新老人の会熊本支部・戦争語り継ぐ会」など。

戦争体験者の高齢化が進む中、悲惨な記憶を後世に伝える資料館「ピースくまもと(仮称)」設立を目指す。3月に準備会の事務局を結成した。

ピースくまもとは、熊本大空襲の被害調査▽戦争の歴史や戦争遺産の学習▽次世代への継承——などの拠点。事務局長の高谷和生さ

ん(63)は「あらゆる戦争資料を展示して平和学習の場になりたい」と話す。

13日の設立準備会は午後2時、熊本市中央区のくまもと県民交流館パレアで開催。熊本大空襲を経験した赤木満智子さんら3人を講師に、意見発表やワークショップなどで資料館について考える。参加には資料代として500円が必要。定員100人。問い合わせは高谷さん090・1513・5528。

【城島勇人】

南九州の戦争資料館



南九州では鹿児島県の「知覧特攻平和会館」(南九州市)と「万世特攻平和祈念館」(南さつま市)などが知られる。

知覧は特攻隊員の遺品など約1万5000点を収蔵。来館者はピーク時から半減したが2017年度は38万人が訪れた。

宮崎県は「県遺族会館」(宮崎市)の千人針や軍用品など展示品124点を県のホームページ「デジタルミュージアム『宮崎の戦争記録継承館』」で紹介。出征や疎開の体験を語る14人の証言も聞くことができる。2008年の開設以降、延べ約7万人がアクセスしている。

太平洋戦争の戦時資料などを常設展示する戦争・平和資料館を県内に造ろうと、戦争に関する活動に取り組む市民団体などが近く設立準備会を発足させる。戦争を体験した世代が少なくなる中、二度と過ちを繰り返さないよう過酷な記憶を次世代に引き継ぐのが狙いだ。

同様の施設は戦後70年の節目を挟んだこの10年、全国で増えつつある。九州では北九州市が平和資料館の建設を計画している。

県内には私設の記念館や自衛隊の資料館はあるが、戦争を多角的、総合的に学べる施設はない。新老人の会熊本支部の「戦争を語り継ぐ会」と、戦跡保存などに取り組む「戦争遺産フォーラムくまもと」が

戦争の記憶 後世に 平和資料館 県内設立へ



収集品の一つ、旧南満州鉄道の立て看板について解説する上村真理子さん＝宇城市

市民団体など 13日に準備会

中心となり、1月から資料館建設に向け、動きだした。

資料館の活動として想定しているのは戦時資料の調査、収集のほか、熊本空襲の被害調査や記録、戦争遺産

産の情報発信など。費用は市民からの募金に加えて企業からの賛同を募って捻出するほか、自治体にも支援を求めていく考え。

展示を予定している戦時資料の一部は宇城市の元高

校教諭、上村真理子さん(64)による収集品。子どもたちの戦意をおおった少年雑誌や絵本、千人針や飛行服などその数は約5千点に上る。上村さんは「当時を知る戦時資料には訴える力

がある。未来の教訓に生かしてほしい」と資料館の完成を待ち望む。

同フォーラムの事務局を務める「くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク」の高谷和生さん(63)は「実際に資料館を造るまでには長い時間がかかると思う。戦争の恐ろしさを後世に伝えたいと思う人たちが一緒に、活動を広げていきたい」と話す。

設立準備会の発足会は13日午後2時、熊本市中央区の県民交流館パレアで。上村さんや新老人の会の戦争体験者による意見発表もある。入場は無料だが、資料代500円が必要。問い合わせは高谷さん ☎090(15)13()55288。

(熊川果穂)